

---

# ヤンデレな に愛されて夜も眠れない

ジェットエンジントーマス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヤンデレな 　　に愛されて夜も眠れない

### 【Nコード】

N7467S

### 【作者名】

ジェットエンジントーマス

### 【あらすじ】

あ………ありのまま　今　起こった事を話すぜ！　『連載小説の続きを書いていると思ったら短編小説になっていた』。な、何を言っているのかわからねーと思うが、おれも何をされたのかわからなかった……頭がどうにかなりそうだった、催眠術だとか超スピードだとかそんなチャチなもんじゃあ、断じてねえ。もっと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ……

(前書き)

どうしてこうなった……

「全員揃ってますねー。それじゃこれからSHRをはじめますよー」

その能天気な声に、右手に握り締めたボールペンがミシリと音を立てる。

「皆さん初めまして。私はこのIS学園の教師をしている

山田 真耶といます。これから3年間、皆さんと一緒にISについて勉強することとなります。よろしくお願いしますね！」

正直に言おう。俺は 織斑 一夏は、怒っていた。

本来であれば俺はこんな、IS学園なんていう香水臭い学校に入るつもりなんてさらさら無かったからだ。

返す返すもあの受験会場を間違えた挙句、偶然一緒の市民ホールを使っていたIS学園の領域に迷い込み、挙句備品としておいてあったISに触れてしまい、あまつさえ動かしてしまった自分の首を絞めてやりたくなる。

死んじまったら俺の存在理由がこなせなくなるので真っ平ごめん  
だがな。フア クー！

ああ、クソ。イライラする。世界初だかなんだか知らないが、高々女しか動かせない“オモチャ”一機、男が動かしたってだけでバタバタしやがって……その上寮生活をしろだと？ 縊り殺してやる  
うか がっ！

「らくん、織斑 一夏くん！」

「あゝあ？」

「ひう！ お、大声出しちゃってごめんね、ごめんなさい！ 謝るからそんなに睨まないで！ じ、自己紹介……してほしじやなくて、お、お願いできませんでしょうか……だ、ダメでしょうかあ……？」

「……ちっ！ 織斑 一夏だ。よろしくするつもりはねエ。視界に入んな。以上」

ふん、この程度で腰が引けるなんてろくに鍛えてねエな？ この女。<sup>アマ</sup>

少しはうちの姉を見習えと言いたい。あの女性<sup>ひと</sup>ことまさに理想。全ての頂点に立つにふさわし（パンツ！）むお！

「教師を威圧するな、馬鹿者」

こ、この芸術的な角度を痛打する感覚、そして耳をくすぐる甘い美声

「ち、千冬姉？！」（スパアンツッ！）

「ここは学校だ。織斑先生と呼べ」

ああ、なんとということだ。全てが繋がった。

そうか、そういうことだったのか。わざわざ市民ホールの一部を占拠してまでこの俺をIS学園に入れた理由が、今はっきりとわかった。

姉さん、姉さん！ ああ、そんなにも俺と一緒にいたかったんだ

ね！

いつもは恥ずかしがって月に1〜2度しか家に帰ってきてくれないで、24時間しか同じ世界くわいかんにいられなかつたけど、寮生活をするここなら同じ学校くわいかんに24時間いられるんだ！

ああ、姉さん。千冬姉さん。大丈夫だよ。これからは俺がちゃんと24時間すぐ近くで見守ってあげるから。

食事も三食ちゃんとな俺の血液けつじゆを入れて作ってあげるし、掃除も文字通り舐めるようにするし、洗濯も姉さんを撫でるように優しく洗うし、夜寝るときも寒くないように先に布団を暖めてあげるね？

だから、そんなメガネをキニスルヒツヨウナンテナインダヨ……。

「(ぶるっ)……冷房でも効いているのか？」

「……？」

「きゃー……！ 千冬様！ 本物の千冬様よ！」

！ 名前で呼ぶだと？ 貴様何様のつもりだ、この売女が！

「ずっとファンでした！」

ハッ、画面の向こう側でオナってる、クソが！

「私、お姉様に憧れてこの学園に来たんです！ 北九州から！」

魚の餌にでもなってる、千冬姉の家族は俺一人で十分なんだよ、

ひっこめ！

「私、お姉さまのためなら死ねます！」

よし、手伝ってやる。絞首して斬首して梟首して切腹させて鋸挽き生き埋めて溺死させ磔刑して薬殺と毒殺して杭打ちのうえ串刺しにして皮を剥ぎ腹を裂き火に炙り釜茹でにしたあと銃殺と刺殺して鼻を削ぎ断手して断指して目を刮り貫いて狗に犯させてやる。

「……ふん、よくもまあ毎年これだけの馬鹿者が集まるものだ。感心させられる。それとも何か？ わざわざ私のクラスにこういった馬鹿者どもを集めているのか？」

ああ！ ごめんよ姉さん。そうだったね、こんな生きていても二酸化炭素を吐き出すくらいしか使い道が無い馬鹿は無視するのが一番だったね。

大丈夫、わかっているよ。姉さんを一番理解できるのは唯一の家<sup>しん</sup>族である俺だけなんだから。

「で？ 挨拶も満足にできんのか。お前は」

「いえ、先ほどは失礼いたしました。馨しい花の香りについて我を失っていたようです。改めまして初めまして。織斑 一夏と申します。苗字からわかるように織斑先生の弟になります。皆さんよろしくお願いたしますね」

だから、姉さんが恥をかくような軽挙妄動は慎むべきだ。

俺は織斑 千冬の唯一の弟。最愛の弟なんだと姉さんが胸を張って言えるように立ち振る舞わなければならぬ。

姉さんが気にかけるのは俺だけでいい。姉さんが愛するのは俺だけでいい。姉さんが見つめるのは俺だけでいい。姉さんを守るのは俺だけでいい。姉さんと一緒にいるのは俺だけでいい。姉さんと手を繋ぐのは俺だけでいい。姉さんに叩かれるのは俺だけでいい。姉さんに褒められるのは俺だけでいい。姉さんに怒られるのも俺だけでいい。姉さんとしゃべるのも俺だけでいい。姉さんと、姉さんと姉さんと姉さんと姉さんと姉さん姉さん姉さん姉さん姉さん姉さん！！！！！！

だから、姉あねさんに近ちかづく女子むすめを駆除して、駆逐しよう。  
折角姉さんがくれたISがあるんだから。

アイしてるよ、姉さん



(後書き)

続きませんよ？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7467s/>

---

ヤンデレな に愛されて夜も眠れない

2011年4月29日14時39分発行